

## 地域の皆様、保護者の皆様

日頃より王一小の教育にご理解とご協力に感謝いたしております。  
4月に実施されました、「北区基礎基本調査」の結果分析に基づいて授業改善策を示した「授業改善推進プラン」ができましたので、公開をいたします。ご覧になってご意見・ご要望があれば学校までお願いします。

校長 小宮山 郁子

# 平成 22 年 授業改善推進プラン

北区立王子第一小学校

平成22年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	・基礎はよいが、活用に課題がある。観点別では「国語への関心・意欲・態度」「話す聞く能力」は、どの学年も期待正答率を十分に上回っている。反面、「書く能力」「読む能力」は、期待値を下回る学年もあり、課題がある。言語事項は特に6年が課題である。
社会	・どの学年も、全観点で期待正答率を上回っている。ただ「観察・資料活用」の技能・表現と「社会的な事象」についての知識・理解は、上回っているポイントが低く課題が見られる。基礎はよいが、特に5学年の活用は課題がある。
算数	・どの学年も期待正答率は上回っている。領域別で見ると「数と計算」と「量と測定」は高い数値であるが、「図形」と「数量関係」は下回る学年もあり、また上回っても2～3ポイントでしかなく、課題がある。2～4年生の活用の力に課題がある。
理科	・5、6年生はどの領域も期待正答率を上回っていたが、4年生は「物質とエネルギー」で0.6ポイント上回っただけで観点別すべてに課題がある。単元により習熟の差が大きい。

本校の教育目標
○親切で礼儀正しい子
○体をきたえ、元気な子
○よく考え最後までやりぬく子
○仲良く助け合える子

本校が児童に育成したい力
・学ぶ力の基になる言語力 ①文章を読んで内容を的確に理解する力 ②人の話をしっかり聞いて、内容を正確に理解する力 ③自分の思いや考えを相手に分かるように話す力 ④文章を正しく書く力
・基本的な知識・技能を確実に定着させる。
・思考力、判断力、表現力を課題探求学習等で育て、活用力を育てる。

学力向上にかかわる経営方針
・学習規律の徹底と児童一人一人の学習状況の把握。
・毎時間の授業計画と改善の積み上げ。
・体験的学習、課題探究学習の実施
・少人数、TTなど個に応じた指導の徹底

校内における学力向上推進体制
・学力向上委員会において各学年の取り組みの集約・分析を行い、成果と課題を明確にする。それを各担任が授業の改善に生かす。
・成果と課題を次年度の教育課程・教育計画に生かし、年間指導計画・評価規準を作成するとともに通知表の全面改訂を行う。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的学習、課題探究学習の計画的に実施する。</li> <li>・段階的な目標の明確化により、活用力の向上を図る。</li> <li>・少人数、TT、習熟度等個に応じた指導の実施による、個に応じた指導の徹底。</li> <li>・ねらいの明確な充実した授業。</li> <li>・「習得」「活用」「探究」の授業展開の工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活時程の見直しによる教科授業時間の確保。</li> <li>・2年生以上の算数科少人数授業による習熟度別授業の実施。</li> <li>・1、4、6年生のTT授業の有効活用。</li> <li>・各教科や総合的な学習でゲストティーチャーの活用。</li> <li>・各教科で体験的な活動を多く取り入れる。</li> <li>・スキル学習、読書タイムの確保。</li> <li>・サマースクールの実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究授業の年8回(各教科)実施し、個人の授業力を高める。</li> <li>・研究授業や日々の授業を通してそれぞれの教科等の特性に応じた言語活動の実践研究を行い、児童の「伝え合う力」を育成していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科において複数の指導者による評価(2年生以上)。</li> <li>・学年の共通理解した評価規準による通知表作成。</li> <li>・日々の評価と指導の一体化を週案などに記録し実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、ホームページ等で生活習慣確立や家庭学習を啓発する。</li> <li>・学校評議委員や保護者の外部評価を活用して授業改善に生かしていく。</li> <li>・学校全日公開や授業参観を積極的に行い、保護者のアンケート等の意見を授業改善に生かす。</li> </ul>

平成22年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

北区立王子第一小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
話を聞き取ることは、区の平均を若干上回ったが、その他については、ほぼ区の平均を下回っている。説明文の読み取りは比較的よいが、物語の読み取りは、期待正答率を8ポイントと大きく下回った。また、「は」「を」「へ」の正しい使い方、文章を書くことは不十分である。	話す・聞く能力は区の平均を4ポイント上回った。その他の観点については、期待正答率は上回っているものの区の平均を下回っている。特に、書く能力は、区の平均を6ポイントと大きく下回っている。書くことの記述では、無回答率が16.3パーセントに上ることが課題である。	内容別でも観点別でも区の平均点に及ばないものが多かった。また、定着度に個人差が大きい。その中で、全体として書く能力が低かった。日常から、簡単な文を書き、書くことに慣れていく必要があると思われる。合わせて、助詞の使い方重点的に指導していきたい。
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
かたちにおいては、区の平均と同程度、その他の内容は下回るが、差は1ポイント程度。その中で、たし算・ひき算の問題は、区の平均を5ポイント下回る結果となった。求差・求補の意味理解と立式が特に課題である。	全ての観点で、期待正答率を上回っている。数量や図形については表現・処理、知識・理解ともに区の平均と同程度。しかし、数学的な考え方においては、区の平均を3ポイント下回る結果となった。	80%以上の児童は、計算力の基礎・基本の定着が図られているが、個人差が大きい。文章題から立式することや、式に合う文章題を選ぶことを苦手としている児童が多い。答えを出すまでの過程を大切に、考える力を育成することが課題である。

平成22年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
物語の読み取りは比較的よいが、説明文の読み取りは、期待正答率を大きく下回っている。 漢字の読みは期待正答率を7～8ポイント上回っているが、書く問題は課題が多く残る。 作文は必要な事柄を集めることが苦手である。	話す・聞く能力は期待を上回っているが、読む能力は3ポイント下回り課題である。 言語の知識理解については漢字、カタカナともに読めるが書くことの定着が69%と低い。	読解に必要な言語事項の理解が弱いために長文の読み取りに影響が出ている。また文章の順序に沿って読み進めたり想像を広げたりする力をつける必要がある。 基本的な言語についての知識理解の定着を図ることで、読解力もつくと考えられる。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
おおむね期待正答率を上回っており、特に計算問題によい結果が出ているが、式から文章題を作成したり、単位の選択や図形の弁別は課題である。 立体(箱)の学習においては、正答率が55%と大きな課題となっている。空間把握ができていない児童が多い。	算数への関心意欲は比較的高いが区平均には至っていない。数量や図形に関して、表現処理能力の評価は高いが、知識理解では3つの数を並べ最大、最小の数をつくる問題など、活用観点の正答率が低い。	関心も高く、調査結果から基礎の計算力についてはと思われる。反面、計算の文章題や応用問題、数量、図形などの思考問題の定着が低いことがわかった。 問題の出し方や練習量などとともに活用する力を伸ばす指導の工夫が必要である。

平成22年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
概ねの項目において期待正答率を上回っているが、唯一「作文」項目においては、区平均また期待正答率においても1～2ポイント下回る結果となった。「言葉の学習」においても正答率は69%で課題が残る。	「読む能力」は区平均を5.5ポイント上回った。「書く能力」期待正答率、区平均より下回り課題がある。「関心・意欲・態度」においては区平均をわずかに下回る結果となった。「聞く・話す能力」と「言語の知識・理解・技能」は期待正答率も区平均も上回った。	「言葉の学習」と「書く能力」の課題が結び付いている。日常の読書等で語彙の理解や量を増やす指導が必要である。習得した語彙を様々な教科や場面で活用する機会を増やしていくなど、指導の工夫が必要である。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
すべての項目において、期待正答率・区平均を上回っている。「工場の仕事」では10ポイント以上上回るよい結果が出ている。社会に対する関心は全体的に高い数値を表している。しかし活用が十分でないことがわかった。	どの観点も期待正答率・区の平均を上回る結果であった。特に「関心・意欲・態度」においては期待正答率・区平均正答率を大きく上回る結果となった。「知識・理解」においても期待正答率を約5ポイント上回っている。	社会的事象への関心が学習意欲へとつながっていき、概ね理解できている。資料や写真から考察する力を伸ばし、活用力向上に結び付ける。表やグラフから読み取る学習を引き続き行っていくと共に、更なる興味・関心を引く教材の工夫が必要である。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
区平均正答率を若干下回る項目がいくつかあるがどの内容も期待正答率を上回る結果が出ており、基礎は概ね定着していると見られる。しかし活用が十分でないことがわかった。また領域別では「数量関係」に課題があることがわかった。	「知識・理解」は期待正答率を大きく上回り、区平均も上回っている。「数学的思考方」は期待正答率を上回っているが、区平均を1.1ポイントも下回り、65%で課題が大きい。その他の観点では、いずれも区平均をわずかに上回っている。算数に対して苦手意識をもっている児童が多く見受けられる。	棒グラフの有用性を説明する問題に課題がある。計算等の基礎的力の定着と共に、「数学的な考え方」の力の育成のために、問題の解き方を説明させたり、物の見方考え方を広げていく指導の課題が明らかになった。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「光の性質」や「電気の通り道」は期待正答率を上回っているが、どの内容も区平均正答率を下回り、多くの課題が見られる。特に「植物の育ち方」「日なたと日かげ」など生物とその環境の領域では、5ポイント近くも下回る結果となり、大きな課題である。	どの観点においても正答率が5ポイントほど区平均を下回っている。特に「観察・実験の技能・表現」では、期待正答率をも大きく下回る結果となっている。また「関心・意欲・態度」が55%の正答率であることは、大きな課題である。	まずは自然事象への関心を高めていく必要がある。身近な教材を用意して興味をもたせ、観察・実験から考察を引き出していく指導を工夫していく必要がある。単元内容により定着に大きな差があること、継続観察からの指導の課題が分かった。

平成22年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
物語や説明文の読み取りは、区の平均を4ポイントほど上回っている。また聞き取りや「言葉の学習」は、3ポイント上回り、読み取り話し合いも14ポイントと大きく上回っている。漢字の学習では、読むは4ポイント、書くは2ポイント上回っている。一方作文が6ポイント下回る結果となった。	「話す・聞く能力」は区の平均を約5ポイント上回ったが、書く能力は3ポイント下回り、「関心・意欲・態度」も2ポイント区の平均を下回った。「言語についての知識理解」は、4ポイント区の平均を上回る結果となり、観点によるばらつきが明らかになった。	作文が苦手、関心意欲態度が低くなっている児童が多かった。話を考えながら聞いたり、自分の考えを自分の言葉でまとめて、話したり書いたりする力の育成が一番の課題である。また、既習漢字の定着を図る指導ももう少しである。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
内容別では、「安全な暮らし-交通事故」が1.3ポイント、「昔のくらしの様子」が1.5ポイント、区平均を下回った。その他の4項目については、2ポイント以上、区の平均を上回っており、特に「地形図の見方」については、7.1ポイント上回り、「伝統工芸」も4ポイント上回っている。	「社会的事象への関心・意欲・態度」以外は、区の平均を上回り、特に「社会的な思考・判断」は82%とよい結果である。「社会的事象への関心・意欲・態度」は、だいたい区の平均と同じレベルであるが、77%であり課題となった。	全体的には、区の平均を上回る結果となった。「社会的な思考・判断」は、その中でも大幅に上回っていた。一方、「社会的事象についての知識・理解」が、もう少し伸びるよう課題としていくとともに、活用の指導の課題が明らかになった。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「面積」と「いろいろな形」の項目では、区の平均を上回っている。一方その他の項目では、区の平均を下回る結果となった。特に「三角形と角の大きさ」では、区の平均より3.5ポイントも下回っている。また、「概数の表し方」は62%の正答となり課題である。	「数量や図形についての表現処理」は期待正答率を4ポイント上回ったが、すべての項目で、区の平均を下回っているが2ポイント以上の大きな開きはない。「数学的な考え方」では、差が0.8ポイントにとどまっている。	期待正答率をすべて上回っているが、区の平均はすべて下回る結果となった。基礎・基本は身に付いているのだが、学習したことを活用する面の課題が分かった。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
内容による理解力の差が比較的大きい。「もののあたまりかた」は、5.3ポイントと上回っているが、「もののかさと力」では、2ポイント下回り、同じような分野でも苦手な内容とそうでない内容になっている。その他の内容では、ほぼ区の平均となっている。	すべての項目で、区の平均を上回っているが、大きな開きはない。科学的な思考は、1.7ポイント区の平均を3.8ポイント期待正答率を上回った。	すべての観点で期待正答率を大きく上回っているが、区の平均とは上回っている項目もあるものの、大きな開きがない。単元内容によって大きな差であることもわかった。今後も観察や実験等の実体験を伴う活動を通して、技術表現や科学的思考をより一層高めることが課題である。

平成22年度 第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体の傾向・数値としては区と似ている。「漢字を書く」は区の平均を7ポイント下回ったが、「説明文の読み」は4ポイント上回った。期待正答率と比較すると上回る項目が多いが、「言葉の学習」は本校・区ともに期待正答率を20ポイントも下回っている。	5年時と同様に、読む力は区の平均を上回った。他の観点は区をわずかに下回るが、前年度5～8ポイント下回った関心意欲態度や、書く力、話す・聞く力は、ほぼ区と同レベルになった。言語についての知識理解は期待正答率より6ポイント下回っていて課題である。	「言語事項」では、漢字の読みはよく理解しているが、書く方はやや低い。また、接続語や漢字の成り立ちなどの言葉の学習の理解がとても低いので、品詞や文章構成の学習、読み書きだけではなく意味や成り立ちも含めた漢字学習が必要なことがわかった。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「日本の水産業」「日本の工業地域」は、区の平均を3ポイント上回ったが、「農業」は3ポイント下回った。「国土と気候」や「工業」はよく理解していたが、「農業」と「貿易」については、期待正答率を下回った。	すべての観点で、区の平均や期待正答率を上回ったが数値的には区と大きな差はない。また、観点ごとの正答率の差もほとんどない。	全体的に、区の平均と大差なく、平均にとどまっている。海流や工業のさかんな地域に関する理解が低いので、地図を活用して、位置や名称を適宜確認する必要がある。「農業」については、身近なニュースなどを通して、再度指導、確認をする。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
区と同様の傾向を示しており、よく理解している「小数のしくみ」「分数と整数」「合同と直方体・立方体」と正答率が低い「図形の角」「百分率とグラフ」では20ポイントもの開きがある。	本校・区ともに「関心・意欲」のポイントがとても低い。区の平均を上回るもの下回るものが半分半分であるが、その差は大きくても1ポイント強で、正答率の傾向も似ている。「知識理解」「技能表現」はまあまあであるが、「数学的な考え方」「関心・意欲・態度」が低く正答率は60%前後である。	「算数への関心・意欲・態度」が低く、意欲を高めるための導入の工夫など授業の改善を図る必要がある。区の平均と大きな差はないが、「図形の角」など、習熟が十分でない単元については、繰り返し復習するとともに丁寧な個別指導を行う必要があることが分かった。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
顕微鏡の使い方を問う問題が、区よりも1ポイント下った以外は、他の項目すべてで区の平均を上回った。特に「植物の受粉」や「流れる水のはたらき」は、約5ポイント上回り、学習したことが定着している様子が伺われる。しかし、「おもりを使った実験」は、期待正答率をやや下回り、課題である。	すべての観点で区の平均を2～3ポイント、期待正答率を5～7ポイント上回った。観点ごとの正答率の差はほとんどなく、平均していた。	理科に対する関心が高く、学習内容も概ね理解できていると言えるが、20%の定着していない児童へのさらなる手立てが課題である。顕微鏡の使い方が定着していないので、実験の際に繰り返し確認をし、実験器具や用具の正しい理解を深めていく。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

北区立王子第一小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことに苦手意識をもつ児童がいるため、個に応じて支援の手立てを考え、無回答がないようにする。</li> <li>・漢字や助詞の指導方法を工夫し、定着を図ることが課題である。</li> <li>・読むことでは、語句の確認をしながら、順序に気を付けて読み進め、様子や気持ちを読み取る力をつけていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く活動の際、適切なテーマを選び、構成や順序を具体的に指導し、スモールステップで進める。また、助詞や既習の漢字は、文や文章の中で確実に使い、さらに見直す習慣をつけさせ、定着を図る。</li> <li>・読み取りでは、キーワードに線を引く活動や子供の思考の流れに沿ったワークシートを活用する等、丁寧に文章を読み取らせ、力をつけていく。また、文章と写真を結び付けたり動作化させたりする。</li> </ul>	<p>学校図書館や読書タイムを有効活用や音読を通して、文章に親しむ活動を日常的に行う。「書く」学習では作文や他教科において、文章を書く活動を積極的に取り入れていく。また、クイズやゲーム形式の言語活動を取り入れ、楽しさを感じさせながら指導していく。</p>
3年	<p>漢字の定着を図るために、日記や他教科においても、文章を書く際には意識的に漢字を使うように声かけと個に応じた指導をしていく。</p> <p>作文では、自分の考えを明確になるように、簡単な組み立てを考えることが課題である。説明文の読み取りにも課題が残るので、段落ごとの正確な理解や叙述をしっかり押さえるための指導法の工夫をする。</p>	<p>漢字は新出漢字の練習量を増やすとともに、文を書くときに既習漢字を使うことを意識させ、定着を図る。</p> <p>作文を書く際には、適切なテーマを選びメモ作りをし、書く内容を明確にしてから書き始めるという手順を具体的に指導する。</p> <p>文章に多く慣れ親しむため、読書活動と読み聞かせを行う。</p>	<p>漢字に意識を向けさせるために、国語辞典の常用を進めていく。</p> <p>説明文の読み取りに課題が残るため、時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の読み取りができるよう、具体的な指導をするとともに図や表、本や新聞等から読み取ることも取り入れる。</p> <p>読書活動を通して文章に慣れるよう指導していく。</p>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことへの抵抗をなくしていき、質・量共に学年相応の文章力を身につけさせていく。</li> <li>・既習、新出漢字の確実な定着を図るため、ワークシートや家庭学習等を利用してくり返し指導を行うとともに、文章の中で確実に使うようくり返し指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事後の短作文や様々な教科で、書く活動を意識して取り入れていく。</li> <li>・友達の作文等上手な表現方法を参考にさせるなどして意欲を高める。</li> <li>・辞書を常用させて既習漢字の定着を図り、定期的にワークシートで定着の度合いを確認し、適宜補充していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の度合いによっては、家庭学習の時間を利用して更なる漢字学習の定着を図る。</li> <li>・読書タイムや朝スキルの時間を有効に活用し、個別対応を十分に行う。</li> <li>・学年相応の読書が定着するよう、いろいろなジャンルにふれさせ、日常の読書活動を大いに奨励していく。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず「国語への関心・意欲・態度」を育てる。</li> <li>・「書く力」を育てるために、適切なテーマを選び内容や手順表現など具体的に指導しながら書かせる。</li> <li>・漢字についても定着を図る手立てをとる必要がある。</li> </ul>	<p>ディベートなど、みんなが意見を発表する形態の授業を多く組み入れていく。またクラス内で、全員が発表するような機会を多くしていく。短作文を書く機会を増やし、作文への抵抗感を減らしていくとともに、既習漢字を使って文を書く文を確実に書かせ、見直しさせる。漢字は、スキルの時間等で繰り返し行う。</p>	<p>基本的な話し方・聞き方を国語の時間だけでなく、生活全般で指導する。また一行日記に取り組みせたりすることで、聞く力やものごとをいろいろな視点で見る力を育むとともに、書く力も伸ばしていきたい。</p> <p>4年生までの漢字を繰り返し反復練習し、使用させる。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉の学習」に課題があるため、言葉の意味調べは適宜行わせているが、調べるだけで終わってしまっている傾向がある。</li> <li>・漢字学習は新出漢字を学んだ後の繰り返し練習は自主学習にしているため、児童によって定着に差が出てしまうため、確実に文や文章で使わせ、小テストを繰り返し行い、振り返る機会を増やす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた語句や新出漢字を使った短文作りなどを、授業の中で積極的に行っていく。また、朝のスキル学習を利用して漢字練習に取り組みせるとともに、小テストの回数を増やし、既習漢字を振り返る機会を多く設定して定着を図る。</li> <li>・引き続き、説明的文章の読みなどを通して、論理的思考力を育て、活用面を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな場面で、作文や短作文、手紙などを書く機会を設定し、語彙を増やしたり漢字を使うことを意識させたりしていく。</li> <li>・また、そうした取り組みを通して、様々な視点で見る力を育むとともに、書く力も伸ばしていく。</li> </ul>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

北区立王子第一小学校

補充・発展指導計画

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年			
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き関心・意欲をもたせつつ、自分達の生活と関連させながらの授業を考えていく。</li> <li>・資料の読み取りから考察を導き出し、自らの考えを深めていく学習を展開していけるよう、指導方法を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域の様子については、事象をしっかり観察させ、その結果を地図記号等を使ってまとめるという学習の方法を学ばせていく。</li> <li>・問題解決的な学習過程において意欲的に取り組む新聞形式のまとめを随時取り入れ、表やグラフ、文章や作品等に表現する活動を通して定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達の生活と結びつけて考えられるよう、ビデオ等を使用するなどして、教材教具の有効活用を図る。</li> <li>・来年度の学習内容を視野に入れて、より広い社会的事象にも関心が向けられるような学習を工夫していく。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業や国土の学習を進めていく中で、適切な資料を使い読み取ってはできるが、自分の考えをまとめ、表現する力が苦手である。また社会的事象を自分の生活に結びついて考えられるような指導法を工夫する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに新聞作りに取り組みせ、年間を通して、適切な資料の収集や選択、活用の仕方を学ばせ、社説という形で自分の考えをもたせる。読み取ったことと社会的事象を関連付けて考えたりする活動を計画的におこなっていくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球儀を用いて、世界の国々についての興味・関心を持たせる。</li> <li>・インターネット・図書館の利用について指導する。</li> <li>・新聞やニュースなどを適宜取り上げて、社会的事象に関心をもたせる。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から情報を読み取ったり、資料を活用したりすることが課題であるので、教科書や資料集、地図帳や地球儀など、目的に応じて適切な資料を選び、読み取ったことから自分の考えをまとめる力をつける活動を取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や資料集、地図帳にある資料、図、グラフの読み取りを授業の中に取り入れ、資料を読み取る力がつくよう指導していく。</li> <li>・また、資料から読み取ったことと、社会的事象を関連付けて考えたりする活動を計画的に行う。</li> <li>・社会的な見方、考え方を具体的に教え、自分の考えをまとめ、表現する機会を設けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや思いなどをノートに記述したり、発表や新聞作りなど考えを表現する場を設けたりすることで、社会的な思考・判断力を高めていく。</li> <li>・既習事項を確認することを適宜行い、基礎・基本の定着を図る。</li> </ul>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

北区立王子第一小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
2年	<p>加法・減法の計算及び、集合数を問う文章問題に誤答が多かったため、指導法の工夫が必要。答えを導くまでの過程を重視し、問題解決型の学習を取り入れていく。また、個人差が見られるため、個別指導を取り入れながら、一人ひとりに確実に力を身に付けさせる。</p>	<p>既習事項の復習やスモールステップで指導により、基礎基本の確実な定着を図る。また、具体物や半具体物を操作したり、絵や図を用いイメージ化したりしたものを、自分の言葉で説明する学習を繰り返すことなど、問題場面を多様な表現方法で表す活動を取り入れ、文章問題への理解を深めていく。</p>	<p>少人数指導の特性を生かし、一人ひとりの学習状況を的確に見取り、個に応じた指導をしていく。プリント等で補充したり、発展的な問題に取り組みせたりする。スキル学習や計算ドリルによって、計算力の定着を図る。日常生活において、教師が意図的に集合数や順序数などを取り入れる。</p>
3年	<p>計算の基礎力はついていることから、活用力をつけるための指導の工夫をする。</p> <p>長さや図形の測定を確実にするために、具体物操作を取り入れた指導の充実を図る。</p>	<p>よい結果を受け、自信をもって学習に取り組みさせる。式から文章作成する問題は、内容の意味理解を丁寧に言い文章題を解く練習を繰り返すことにより、力をつけることができると考える。</p> <p>長さや図形は、実際に身の回りにあるものを単位で表す活動を十分に経験させることで理解を確実にする。</p>	<p>少人数学習の特性を生かし、個に応じた課題プリントを計画的に用意し、意欲を高め成就感をもたせる。</p> <p>具体物から抽象的な理解につながるよう、算数的活動を取り入れ学習シートを工夫し効果的な指導を行う。算数を日常生活と結びつけて考えるようにし、意欲をもたせる。</p>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味をもって意欲的に取り組む児童が多い反面、文章題に苦手意識を持つ児童も多く、個人差が大きい。</li> <li>解き方を説明させたりするなど、いろいろな角度からの物の見方考え方を学ばせていく指導方法を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別や学年均等分割等指導形態を工夫し、個に応じた指導がしやすい環境作りを行う。</li> <li>見通しをもって、筋道立てて考える能力を育てるため、自分の考えたことを全体に発表する活動を意識して入れていく。</li> <li>言語活動により意味理解や数学的思考方を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導の特性を生かし、各自の学習状況を把握していく。</li> <li>個に応じて補充プリントや発展プリントを作成し、意欲をもって学習に向かわせ、成就感をもたせる。</li> <li>朝スキルの時間や休み時間等を使って個別指導を行っていく。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>概数は日頃の計算などで見積もりしてから計算力等の確実な定着を図る。</li> <li>問題を読み取ることが苦手なため、習熟の差に応じた指導効果的な指導方法の工夫をする。</li> </ul>	<p>既習事項の復習を授業の中で小テストなどで確実にを行う。実態に応じて習熟度別学年分割や単純分割で行う。スキル等での繰り返し指導、TT指導などを効果的に取り入れ、さらに基礎基本の徹底に努める。活用を図る問題で言語活動を十分行い内容理解を図り、授業内で繰り返し取り入れて文章問題の理解を深める。</p>	<p>少人数指導を通じて、個々の学習状況を確実に見取り指導に生かしていく。プリント等で補充したり、発展的な問題に取り組みせたりする。理解に時間を要する児童には個別指導を進め、具体的なヒントカードなどを使ったり、友達同士で教え合う活動なども取り入れる。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数への興味・関心が低く、苦手意識が強い児童も多い。</li> <li>児童の興味・関心を高めるために、授業展開の改善を行う</li> <li>個人差が大きくなっているため、習熟の差に応じた指導を行い、基礎基本の定着をしっかりと図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎授業のはじめの5分で計算問題に取り組んだり、教科書の問題を確実に取り組ませることで、基礎基本の徹底を図る。</li> <li>また、日常生活の事象や体験的な学習を授業に取り入れ、興味をもたせたり、理解を深めていく。</li> <li>さらに、授業の中で言語活動を行い、思考・判断力を育て活用力を向上させるとともに、既習事項の復習に取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導を通して、個に応じた指導をする。つまづきが見られる児童には、基礎基本から丁寧に指導する。</li> <li>理解が十分で早い児童には発展問題に取り組みせる。</li> <li>日常生活と結びつけたり、体験的な学習活動に取り組ませたりすることを通して、理解を深めるようにする。</li> </ul>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

北区立王子第一小学校

補充・発展指導計画

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年			
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずは自然事象への関心・意欲・態度を高めていくために、自分の身の回りの事象に目を向けさせていく。</li> <li>実験や観察を学習の中心に据え、実験器具や用具の使い方を丁寧に指導したり、継続観察に丁寧に取り組んだりできるよう、指導方法を工夫していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前学年で培った自然の事象・現象の差異点や共通点に気付いたり比較したりする能力に加えて、今年度は実験や観察時に、現象と働きとを関係づけて調べる見方や考え方が身に付けられるよう指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に配慮しながら、観察や実験の機会を大切にしてい</li> <li>調べる活動ではインターネットや図鑑の使い方を適宜指導していく。</li> <li>実験観察後、自分の考えがまとめられるようなワークシートを工夫し、効果的な指導を行っていく。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習経験や身近な生活体験を生かして、「科学的事象への関心・意欲・態度」を高めていく。</li> <li>自然事象に対しての疑問や解決の道筋を具体的に示すとともに考察を十分させ、言語活動により筋道を立てて説明させる。</li> <li>自ら見つけられるような学習方法・環境を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習を行う。授業の中に実験や観察等の実体験を伴う活動を計画し実施する。</li> <li>「問題→予想→観察・実験→結果→考察」という学習過程を身につけさせ、予想の段階で既習事項や生活経験から根拠をもたせる。図や文、発表などの表現を通して思考力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な出来事から、科学的事象に関心をもてるよう、授業の中で取り上げる機会を増やす。</li> <li>学習の発展として視聴覚機器や博物館・関係機関を紹介して、興味・関心を深め学習の発展を図る。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然事象への関心・意欲・態度は高く、今後さらに高めていけるように、身近な生活や事象と結びつけるなどの工夫をしていく。</li> <li>顕微鏡などの実験器具や用具の使い方に課題が見られるため、繰り返し既習事項を確認し、個に応じた丁寧な指導に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の中では、「問題、予想、実験、結果、考察」という学習過程をしっかりと身につけさせる。</li> <li>予想では、既習や生活体験を基に、根拠のある説明をさせる。また、考察では、言語活動を十分に行い、科学的見方・考え方を育てる。</li> <li>実験を通して、用具・器具を全員が正しく使えるように、役割分担をし、協力して行わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物や映像を見せるなど、視覚に訴えるものや身近な事象から課題や疑問をもてるように工夫する。</li> <li>学習の発展として、博物館や関係機関を紹介したり、ニュース等の身近な話題から、学習に関連する内容を取り上げたりすることで、興味・関心を継続させる。</li> </ul>